



2020 インタープロトシリーズ第4大会/KYOJOCUP 第4戦

## 最終戦 報告書

【開催日】 2021年1月30日(土)

【開催場所】 富士スピードウェイ

【形態】 観客入場可 (スタンド側のみ) イベントは中止 ワンデイ開催

株式会社 インタープロトモータースポーツ



## 2020年シーズンを終えて

株式会社インタープロトモータースポーツ

代表取締役 関谷 正徳

平素よりインタープロトシリーズ、KYOJOCUP へのご協力を賜り誠にありがとうございます。

2020年は現代人にとりまして、強力な感染力を持つ新型コロナウイルスに人間力も経済力も大きな打撃を受け、悩まされる年でありました。そして生き方そのものを考え直す必要にも迫られる年ともなりました。自分は大丈夫と言う考え方は改めなくてはならず、生き方の変化も求められる様になってきたと思います。

2020シーズンの開催につきましては、国や地方自治体の対応がさまざまであり、感染者が急増するかと思えば突然のGO TOキャンペーン実施など、スポーツ競技の開催もどこまでの規模でどこまでの範囲で行えばよいのか非常に悩まされました。

しかしながら、モータースポーツの歩みを止めることは決してしてはならないという思いを関係者と共有し、結果、無観客開催は1大会のみ、残り3大会は有観客で、一人の感染者も出すこともなくシーズンを終えることができたことには胸を撫でおろしております。

これからの活動につきましては、今後のモータースポーツをどの様に観てもらうか、新型コロナ感染により迎えた新たな時代でのモータースポーツの方向性を考えて行かなければならないと考えます。

ファンが大勢集まることができない中で、IPSの魅力であるトップドライバーとの身近な距離感やレースとの接点をどれだけデジタルを利用して新しく提供できるか。

既にIPSやKYOJOのベースとなっているカーシェアリングを今の時代にどう当てはめていけるか。女性の活躍の場をいかにこれから持続化し育て上げていけるか。

これからの時代のキーワードにあてはめながら、各企業の皆さんにとっても私たちのレースの存在が、可能性をトライアルできるような土壌であり、試行錯誤のコロナ禍でのモータースポーツの新しい在り方を模索する場としても、何かしらでお役にたてるような存在でありたいと考えております。

インタープロトシリーズとKYOJO CUPは、運転を主軸としたモータースポーツをドライビングアスリートとして発信していきます。また、既存の在り方に捕らわれず、常に新しい試みにチャレンジしていくことも我々の大切なテーマです。

厳しい情勢ではございますが、新シーズンも引き続きお付き合いをいただけますよう心よりお願い申し上げます。

## 報告書

### 【直前での降雪 そして晴天へ】

新型コロナウイルス感染の影響で、最終戦が年をまたぎ、真冬の富士スピードウェイでの開催となった今回、開催日の二日前の木曜日に雪が降り出しあつという間にサーキットは雪景色へと化してしまいました。しかしながら幸いなことに水分を多く含んでいた雪であったため早く溶け出し、翌日は快晴。午前中の練習走行はキャンセルとはなりましたが、午後には走行可能なコンディションとなり、各選手、最終戦に向けての調整が行われました。

最終戦当日は、雲一つない晴天の中、厳しい寒さではありましたが、それでもグランドスタンドや 1 コーナースタンドには観客の姿が見え、シーズンの締めくくりにふさわしい環境の中でレースは行われました。なお、今回は多くの自治体に緊急事態宣言が発令され、静岡県内にも感染拡大緊急警報が発令されていたため、有観客観戦ではありましたが公に来場を促すことはできなかったことが残念です。



### 【緊急事態宣言下での開催について】

緊急事態宣言発令の中で、開催することに正直戸惑いもありましたが、都内では大相撲が開催され、各スポーツ競技も行われていることから、サーキットは屋外であり、関係者及び参加者の徹底した感染防止対策意識、三密の回避、除菌作業、マスク着用の徹底、室内の換気、入場時の検温、事前問診票及びゲストへの紙での問診票提出をお願いすることで、開催を決行することをFSW側と協議の結果決めました。幸いにもその後感染者も出ず、無事に終えることができたことに安堵いたしております。



## 【動画配信でファン層を拡げていくためのチャレンジ】

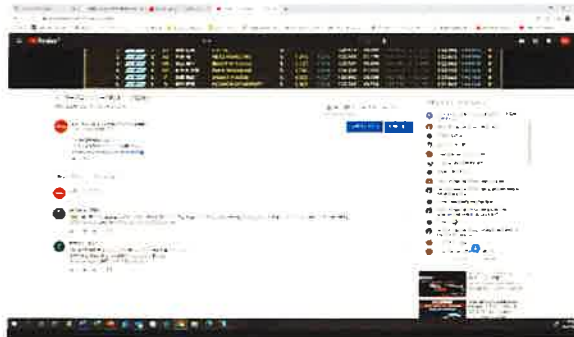
YouTube の LIVE 配信では、少しでも TV 中継に近い質感と DrivingAthlete ならではの情報を取り入れた映像をモータースポーツファンに届けられるように、単なるサーキットのモニター画面の映像ダダ流しするのではなく、専門クルーを組んで工夫を施しています。

- ・第 4 大会より、インタレース方式(FSW から取得する映像はインタレース方式)からコンバーターを導入してプログレッシブ方式に変換して、より滑らかな映像配信を実現しました。
- ・基本的に、無音となっている FSW のモニター画面に臨場感を持たせるために、独自にマイクを設置し、ストレートコース上での音を拾って配信を行いました。
- ・配信画面は 1 画面の中に、レース映像とラップチャートが見ることができるようにし、更にその画面はレース内容と実況内容に合わせてスイッチングを行いました。この切り替え画面の共有によりレースのコンマ何秒での闘いを多くの人々に知ってもらえる事ができたと思います。



- ・実況放送(番場琢選手)と解説(東條エンジニア)には、ドライバーの心境や作戦など、ドライバーに焦点を当てた内容で興奮を伝えられるように盛り上げてもらいました。

- ・動画配信で同時に繰り広げられるチャットでは、会話に突然、出場できなかったプロドライバーや関谷プロデューサーがコメントで登場し、ファンとの距離感が縮まりました。特に第4大会のプロ決勝では、SGTで中山雄一選手とコンビを組む“ヘイキ・コバライネン選手”が登場し、ファンとチャット内での会話が盛り上がり、大いに楽しんでいただけることとなりました。



- ・LIVE 配信に加えオリジナルコンテンツとして「サーキットをぶらぶらご紹介！みかさんぽ」を笠原美香さんのレポートでシリーズ配信しています。こちらでは、なじみの薄いサーキットの紹介や各レーシングドライバーの素顔を届けることにより、より多くの人々に身近な存在としてモータースポーツに魅力を感じてもらえる事を目的に配信しています。

【アナリティクス】 2021年2/15時点

第4大会 IPS PRO 決勝	総視聴回数	5,597 回
第4大会 IPS GEN 決勝	総視聴回数	3,827 回
第4戦 KYOJO CUP 決勝	総視聴回数	5,035 回

第3大会以降の公開本数 16本 (第4大会のLIVE配信5本含む)  
2020年1月～2021年2月までの公開本数 78本

CHANNEL登録者数 3,678人 \*約300% (2019年シーズン終了時比較)  
総視聴回数：32.7万回 \*約488% (2019年シーズン終了時比較)  
総再生時間 (時間)：3.0万時間 \*約476% (2019年シーズン終了時比較)

動画配信はこちらからご覧ください。  
Inter Proto Series x KYOJO CUP CHANNEL  
<https://www.youtube.com/c/IPSxKJCCHANNEL>

## 露出媒体

【CS 放送】 Jsports 3 2020 インタープロトシリーズ & KYOJO CUP

2021/2/22	月	21:30	22:00
2021/2/23	火	20:30	21:00
2021/2/24	水	19:40	20:10
2021/2/25	木	21:30	22:00

## 【新聞】

東京中日スポーツ / 中日スポーツ

- ・福住 連勝で決めた IPS 初王者(IPS/KYOJO CUP レポート)(1/31)
- ・「KYOJO のレベルどんどん上がった」4 代目女王・三浦愛(KYOJO CUP チャンピオンインタビュー)(2/1)
- ・琉球新報



## 【Web(有料閲覧)】

トーチウ EXPRESS(東京中日スポーツ・モータースポーツ情報 web 版)

- ・福住 連勝で決めた IPS 初王者(IPS/KYOJO CUP レポート)(1/31)
- ・「KYOJO のレベルどんどん上がった」4 代目女王・三浦愛(KYOJO CUP チャンピオンインタビュー)(2/1)

【Web(無料閲覧)】

オートスポーツ Web

[KYOJO CUP 2020 第4戦富士 レースレポート\(2/1\)](#)

[モータースポーツドットコム\(※Yahoo ニュースでも掲載\)](#)

[インタープロト 2020 が閉幕。最終2レースで連勝の福住仁嶺がチャンピオンに\(2/1\)](#)

[KYOJO CUP 第4戦 | 三浦愛が2020年シーズンのチャンピオンに輝く。優勝は翁長実希\(2/1\)](#)

CarWatch

[藤島知子の“女性同士のガチバトル”競争女子「KYOJO-CUP」レポート\(2/8\)](#)

文部科学大臣賞授与について、オートスポーツ Web、モータースポーツドットコムに掲載していただいた結果、多数のポータルサイトにも記事が広がり、周知の向上につながりました。

<記事掲載>

オートスポーツ Web

[“競争女子”たちのレース『KYOJO CUP』にスポーツ庁の支援により文部科学大臣賞を制定](#)

[モータースポーツドットコム](#)

[女性最速を決める KYOJO CUP の2020年シーズン王者に文部科学大臣賞授与が決定](#)

[Yahoo ニュース](#)、[AutoSalon.tokyo](#)、[BIGLOBE ニュース](#)、[msn\(powerd by Microsoft News\)](#)、[オリコンニュース](#)、[dmenu ニュース\(docomo\)](#) etc

2月22日(月)開催予定の2021 KYOJO CUP 参戦ドライバー合同オーディションについて、多数の媒体で紹介していただきました。

<記事掲載>

オートスポーツ Web

[来たれ競走女子。2021年 KYOJO CUP 参戦ドライバーオーディションが2月に開催](#)

[モータースポーツドットコム](#)

[KYOJO CUP、2021年シーズンの参戦ドライバー合同オーディションを開催](#)

CarWatch

[女性ドライバーのみで争われる「KYOJO CUP」、2021シーズン参戦ドライバー&チームの合同オーディション](#)

[モータースポーツフォーラム](#)

[KYOJO:2021 KYOJO CUP 参戦ドライバー合同オーディションをFSWで開催](#)

<プレスリリース掲載>

PRTIMES

[2021 KYOJO CUP 参戦ドライバー合同オーディションを開催](#)

SPORTS MANIA

[2021 KYOJO CUP 参戦ドライバー合同オーディションを開催](#)

[Yahoo ニュース](#)、[AutoSalon.tokyo](#)、[BIGLOBE ニュース](#)、[msn\(power by Microsoft News\)](#)、[オリコンニュース](#)、[dmenu ニュース\(docomo\)](#)、[excite ニュース](#)、[ニコニコニュース](#)、[LINE ニュース](#)、 etc

## 【RACE REPORT】

レースレポートは、下記オフィシャルWEB サイトよりご覧ください。

IPS PRO	Rd.7-8	<a href="https://drivingathlete.com/result/3085/">https://drivingathlete.com/result/3085/</a>
IPS GEN	Rd.7-8	<a href="https://drivingathlete.com/result/3114/">https://drivingathlete.com/result/3114/</a>
IPS GEN EXP	Rd.7-8	<a href="https://drivingathlete.com/result/3102/">https://drivingathlete.com/result/3102/</a>
CCS-R	Rd.7-8	<a href="https://drivingathlete.com/result/3123/">https://drivingathlete.com/result/3123/</a>
KYOJO CUP	Rd.4	<a href="https://drivingathlete.com/result/3062/">https://drivingathlete.com/result/3062/</a>
SUPRA GT4 参戦		<a href="https://drivingathlete.com/news/3139/">https://drivingathlete.com/news/3139/</a>



## 【インタープロトシリーズ 2020 年シーズンチャンピオンは福住仁嶺選手に！】

2020 インタープロトシリーズ powered by KeePer の第 4 大会・プロフェッショナルレースは第 7 戦・第 8 戦ともに #37 福住仁嶺(キーパー号)が優勝を飾り、2020 年のシリーズチャンピオンに輝いた。

予選は上位 8 台がコースレコードを更新するタイムを記録し、そのうちの 7 台が 0.2 秒以内にひしめく稀に見る接戦に。その中でポールポジションを獲得したのは 1 分 43 秒 568 を記録した #88 佐々木大樹(Pastel Motorsport)。チャンピオンがかかる福住は 3 番手スタートとなった。

第 7 戦決勝では、ポールポジションの佐々木に対し 2 番手スタートの #16 ロニー・クインタレリ(ララパルーザ)が TGR コーナーでインからオーバーテイクを試みる。さらに、その 2 台のバトルで空いたイン側のスペースを突いた福住も加わり、いきなり激しいトップ争いが繰り広げられた。福住は 13 コーナーでクインタレリの背後につき、GR スーパーカーナーでインからのオーバーテイクに成功。トップに立った後は、背後でのバトルをしり目に終盤は独走状態へ。最終的に 2.7 秒の差をつけて優勝し、前回大会から続く連勝を 3 に伸ばした。なお、最終大会は獲得できるポイントが通常の 1.5 倍となるため、この第 7 戦の結果で福住がシリーズチャンピオンを確定した。

第 8 戦は福住と、第 7 戦で 2 位となった坪井によるトップ争いが白熱した。4 周目にコース上にストップした車両を回収するためセーフティカーが入ると、最終ラップでレース再開。逆転トップを狙った坪井はスタートダッシュに狙いを定め、福住のテールにはりついてチャンスをうかがうが、福住も自己ベストタイムを記録する走りで逃げ切り、第 8 戦もトップチェッカーを受けた。坪井は僅か 0.8 秒差で及ばず 2 戦連続の 2 位となったが、これで大量ポイントを加算しランキング 2 位に浮上。ランキング 3 位には、今大会でファステストラップを記録したクインタレリとなった。

シリーズチャンピオン：福住仁嶺(#37 キーパー号)

「今シーズンはどのサーキットでも調子が良く、開幕大会からずっと表彰台に上がることができました。クルマの仕上がりも良かったです。とにかくチームの皆さんに感謝したいです。やっぱり、どのカテゴリーにおいても優勝するというのは大事だと思います。僕も確実にステップアップして成長していると思うので、今後も常に自分を追い込んで頑張りたいです」

【Inter Proto Series - Professional Class Ranking】

Pos.	No.	Driver	Car	Point
1st	37	福住仁嶺	キーパー号	162
2nd	32	坪井翔	NETZ NOVEL MIE	102
3rd	16	ロニー・クインタレッリ	ララパルーザ	89.5



## 【KYOJO CUP シリーズチャンピオン三浦愛選手に文部科学大臣賞杯 授与】

2020年のKYOJO CUP SUPPORTED BY MUSEE PLATINUMは、第4戦で2位表彰台を獲得した#38 三浦愛(LHG Racing YLT)がシリーズチャンピオンに輝いた。

公式予選では、ランキング首位で最終戦を迎えた三浦が早々に2分を切ってトップに立った。それに対し、逆転チャンピオンの可能性を残している#37 翁長実希(KeePer VITA)も徐々にペースを上げていき、セッション後半に1分59秒893の好タイムを叩き出したが、三浦に対してわずか0.082秒届かず。ここでチェッカーフラッグとなり、三浦がシーズン3度目となるポールポジションを獲得した。

決勝は、好スタートを決めた三浦がトップでTGRコーナーを通過。2番手の翁長もしっかりと背後につけ、序盤からトップ争いが接近した。オープニングラップは首位を守り切った三浦だったが、2周目のADVANコーナーでミスをしてしまい、直後のダンロップコーナーで翁長の先行を許してしまう。このまま一気に逃げ切りたい翁長だったが、三浦もすぐに立て直して背後に接近。三浦は少しずつ間合いを詰めていき、4周目のTGRコーナーでトップを奪い返すが、翁長も5周目のGRスーパーカーナーでインに飛び込み、再びトップに浮上。抜きつ抜かれつのバトルに、LIVE配信を含め観客は大いに盛り上がった。

レース後半も翁長と三浦のマッチレースとなり、お互いに一步も譲らない戦いを見せる。8周目に翁長が2分00秒492のファステストラップを刻むと、翌9周目には三浦が2分00秒182で最速ラップを更新。まさに意地と意地がぶつかり合うトップ争いとなった。三浦は最終ラップまでプレッシャーをかけ続けたが、翁長は冷静な走りでトップを守りきりチェッカー。第1戦以来となる今季2勝目を飾った。2位に入った三浦が2020シーズンのシリーズチャンピオンとなり、自身のレースキャリアの中でも初のタイトル獲得となった。

シリーズチャンピオン：三浦愛(#38 LHG Racing YLT)

「今シーズン、私にとってはすごくプレッシャーのかかるシリーズでした。『全戦全勝』『勝って当たり前』という中で臨み、その開幕戦から勝てなかったというのが、すごく悔しかったです。最終戦も勝って終わりたかったです。そのチャンスがあったのに勝てなくて終わってしまい、まだまだ自分の実力が足りてないと痛感したシーズンでした。でも、フォーミュラカーのレースでは得ることができなかった経験をたくさんできて、これからのドライバー人生において、間違いなく役に立つと思います。私にとってはカートの頃も含めて初めてのチャンピオン獲得なので、嬉しいです」

【KYOJO CUP Ranking】

Pos.	No.	Driver	Car	Point
1st	38	三浦愛	LHG Racing YLT	80
2nd	37	翁長実希	KeePer VITA	67
3rd	86/8	猪爪杏奈	Dr.DRY VITA	53.5

